



# 日本赤十字社和歌山医療センター 初期研修プログラム案内

## 🌀 日赤和歌山の初期研修はここが特徴！



### 関西有数の救急研修

24時間全例応需の高度救命救急センターでの救急研修で実力を身につけます。  
救急車搬送台数は約8,200台。救急搬送者数は24,000人以上と圧倒的な症例数・症例幅を経験できます。



### 自慢の研修仲間と指導医

なんといっても自慢は同期や先輩。若手医師の割合も多くコミュニケーションが活発です。医師数233名・指導医数87名と誰にでも聞ける環境があります。勉強会も積極的に開催され、知識の幅も広がります。



### ワークライフバランスもイイ！

日赤和歌山の初期研修では、仕事漬けということはありません。  
しっかり働きしっかり休む（遊ぶ）文化が根付いています。食事も美味しく、自然も満喫でき、都市部へのアクセスもよい希少な環境です。

## 🌀 自由度の高い研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						救急			選択		
2年次	選択必修		精神	地域医療		選択						



筒井一成 副院長  
(研修プログラム責任者)

当院は110年以上の歴史を持つ基幹病院であり、この地域の“最後の砦”となる医療機関です。common diseaseから高度医療まで多くの疾患が集まるため、幅広い臨床経験を積める点が特徴です。当院の研修は、とにかく自由。研修プログラムは自由選択科目の期間も長いですし、好きなように組み立てることができます。「こういう勉強がしたい」と要望があれば、そのためのサポートも惜しみません。裏を返せば、受け身の姿勢では実り豊かな研修期間を過ごすことが難しいということです。そのためにも、何がやりたいか、どんな医師になりたいかを日々考えて研修に臨んでほしいですね。研修医の意見を尊重し、病院一丸となって全力でバックアップしていきたいと思ひます。



## こんな先輩達が活躍しています！

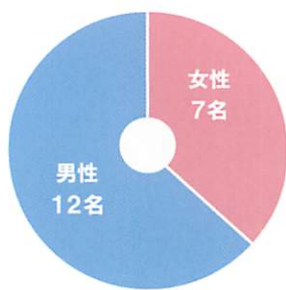
本センターには、全国各地から沢山の研修医が集まっています。どんな先輩たちが切磋琢磨しているのかをご紹介します。



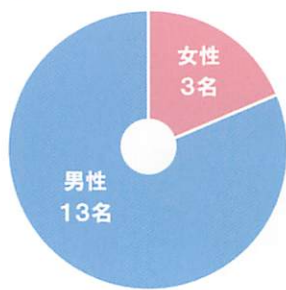
### 出身大学

京都大学・徳島大学・自治医科大学・和歌山県立医科大学・大阪市立大学・神戸大学・近畿大学・大阪医科大学・奈良県立医科大学・兵庫医科大学・京都府立医科大学・三重大学・藤田保健衛生大学・名古屋市立大学・広島大学・山口大学・香川大学・愛媛大学・鹿児島大学・産業医科大学・東北大学・山形大学・山梨大学・東京慈恵医科大学・慶應義塾大学・北海道大学・岩手医科大学・浜松医科大学・関西医科大学（順不同）

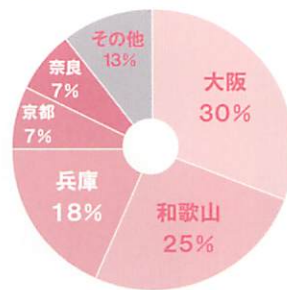
### 1年次人数



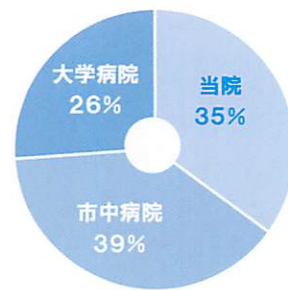
### 2年次人数



### 出身地



### 研修終了後の進路



## 和歌山はこんなところ！



住む：病院から徒歩3分の研修医住宅で生活も便利！  
遊ぶ：文化施設・ゴルフ場・海・山などレジャーも充実！  
食べる：和歌山はとにかく食事が美味しい！

### 【新大阪まで1時間】

最寄りの [JR 和歌山駅] から、特急電車で約1時間！

### 【関西国際空港まで40分】

最寄りの [JR 和歌山駅] から、リムジンバスで約40分、  
電車でも [南海和歌山市駅] から約40分！



## 病院見学に行こう！

お問い合わせはお気軽に  
日本赤十字社  
和歌山医療センター  
研修課 宛にご連絡ください！



073-422-4171（内線5360）



w-kensyu@kankyo.ne.jp



<https://career.m3.com/kenshunavi/hospitals/6121/applications/contact>



見学申込  
フォームは  
こちら！



Q. 退勤後の過ごし方は？



▲ 濱口 史香 先生

▲ 堀 賢太郎 先生

麻酔科は、17時半を過ぎたらどんなに手術が伸びていても交代して研修医を帰宅させる方針なので、退勤後の時間が確保しやすいと感じています。平日は家で料理をしたり、その日の振り返りや読書をしたりして過ごしています。

通勤時間が短く済むよう福利厚生も充実しています。研修医の半数以上が病院の近くにある寮に住んでいますし、わたしは自分でマンションを借りて家賃補助を受けています。上限金額はありますが、自己負担額は家賃の半分ぐらいで済んでいて、ありがたいですね。(堀先生)

Q. 研修環境はいかがですか？



▲ 青柳 貴之 先生

▲ 河野 友香 先生

すごく良いと感じています。新米医師にありがちな雑用に追われることもないですし、看護師さんたちが細かいところまでしっかりサポートして下さるので、医師業務に専念できています。わからないことも先輩方に聞きやすく、図書館にある文献も充実しているので、学びやすい環境だと思いますね。

メリハリを付けて学べるという意味で、好きなタイミングで休みが取れるところも、魅力の1つです。同期と休みを合わせて旅行に行くこともあれば、有給を使って他院の見学に行くこともあります。(青柳先生)



ある1日のスケジュール  
(初期研修1年目 麻酔科)

- 7:30 出勤・術前患者チェック
- 8:00 麻酔科カンファレンス
- 9:00 1例目麻酔準備
- 9:30 指導医と麻酔処置
- 12:00 ランチ
- 13:00 2例目麻酔準備
- 13:30 指導医と麻酔処置
- 17:30 退勤

Schedule



ある1日のスケジュール  
(初期研修2年目 集中治療部)

- 7:30 出勤・勉強会
- 8:30 カンファレンス
- 9:00 カフェタイム
- 9:30 朝回診
- 10:30 患者処置・診察
- 12:00 ランチ
- 13:00 患者処置・診察
- 16:30 夕回診
- 17:30 翌朝カンファレンス準備
- 18:00 退勤

Schedule

充実の施設！



24時間対応の保育園



職員の食生活を支える食堂



国内外1万冊以上を集めた図書室



## 研修医の自主性を育む、日本赤十字社和歌山医療センター

西日本を中心に、全国各地から初期・後期研修医が集まる日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山市、873床）。研修医たちがこの病院の魅力を語る上で必ず口にする「自由」という言葉。何が、どのように自由なのか。さまざまな立場の医師から、同院の魅力について語っていただきました。

### ❖ “自由”にできるファーストタッチ



和歌山市の中核病院として、110年以上の歴史をもつ日本赤十字社和歌山医療センター。

同院の看板部門とも言える高度救命救急センターでは、2017年1月から和歌山市消防局の「**常設型和歌山市救急ワークステーション**」が院内に設置されました。院内の救急隊が**365日24時間対応のドクターカーを出動させる**ことにより、救急体制は更に強固なものとなりました。

研修を始めて約半年、堀賢太郎先生（初期研修1年目）は充実した救急研修を経験し、自分の選択に間違いはなかったと語ります。

ファーストタッチができる、症例が多いと聞いていましたが、その通りでした。何でも自由にできる分、自主的に判断・対応することが求められます。良くも悪くも自分次第なので、やりたいことはどんどん口に出すようにしています。

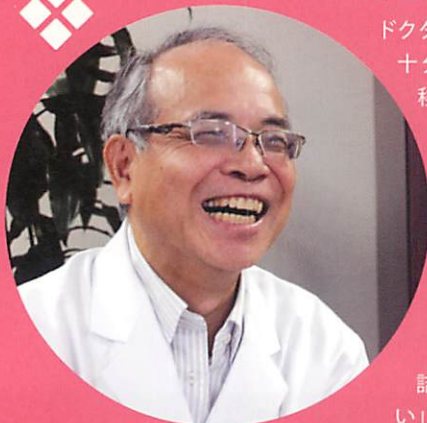
### ❖ 自由だからこそ、ライフプランも真剣に考えられる



研修プログラムは一般的に、病院の規模が大きくなるほど融通が利きにくくなりがちなものですが、しかし、同院は800床超の巨大病院でありながら、**初期研修医一人ひとりの希望にできる限り応えようとする研修環境**を用意しています。そんな自由な環境では、自らの責任で「選ぶこと」が求められ、それは研修内容や症例にかぎらずライフプランにも及びます。河野友香先生（初期研修2年目）は研修を通じて、今後、どのような働き方を選択するか考える機会を得たそうです。

仕事と家庭を両立させて働く女性医師の先輩を見て、わたしはどのように働いていきたいのだろうと考える機会になりました。先輩のようなロールモデルがあると励みになりますね。なかには、研修中に産休・育休に入り、1学年下になって研修を再開している先輩もいます。当院は女性に理解ある方が多いので、ライフイベントがあっても働きやすいのではないのでしょうか。

### 地域の中核病院として、研修病院として、新しいフェーズに



平岡真寛院長

ドクターカー導入による救急体制の強化、指導医層の増強が叶える高度医療の充実、新専門医制度にも十分に対応できる症例数と指導体制——。地域の中核病院として、研修病院として、新しいフェーズに移行し始めた和歌山医療センター。平岡真寛院長はどのような未来予想図を描いているのでしょうか。「当院は地域にとって、“最後の砦”。ですから今後は、高度医療にももっと取り組み、救急医療と両立させていきたいと考えています。

ここでは救急から高度医療まで急性期のすべての医療に向き合います。そのため医師にとっては、しんどいけれど、その分やりがいがある場所です。また、長い医師人生を考えたとき、さまざまな選択肢とキャリアパスを提供できる場所でもあると思います。患者さんにとっても、医師やコメディカルにとっても、期待を裏切らない病院でありたいですね」

“自由”を合言葉に、医師たち、そして症例数が揃う日赤和歌山医療センター。学びたい気持ちを突き詰めるほど、同院の研修は魅力を増していくのではないのでしょうか。「たくさん診て、たくさん学びたい」という研修医の期待に応える環境が、ここにはあります。



本記事の完全版はこちらでお読みいただけます。

<https://career.m3.com/kenshunavi/know-how/pickup/nisseki-w>

QRコードでも  
アクセス可能！

